

ユーザー 訪問

野田鶴声社

〒125-0061 東京都葛飾区亀有 3丁目 2番17号
電話:03-3601-6281

1919年、ハーモニカや鉄琴など米国向けのおもちゃ楽器メーカーとして創業。68年、先代を継いだ野田員弘社長が米国からの依頼でホイッスル作りを始める。軽く吹いても高く澄んだ音が出るホイッスルは、欧米のメーカーに高く評価され、大量に輸出された。

73年、西独(当時)ケルン市で開かれた国際スポーツ用品見本市に出品。仏のホイッスルメーカーの目にとまり、パリ警視庁や北大西洋条約機構(NATO)軍などの機関に採用された。同じ頃、サッカー用ホイッスルが、独のブンデスリーガをはじめ欧州のサッカー界を席巻。82年スペイン、86年メキシコのW杯で正式採用された。

85年のブラザ合意を境に円が急騰し、為替差損を背負い込んでの取り引きで厳しい経営を余儀なくされたが、それでも98年のW杯仏大会、昨年の日韓共催大会を契機に盛り返し、新聞雑誌などで紹介されると全国から問い合わせが来るようになり、国内でも徐々に販路を広げている。

現在、スポーツ界だけでなくJR、警察、観光バスなど、さまざまな分野で採用され、大手スポーツメーカーとも契約し国内ショップにも出荷されている。見た目が美しいため、アクセサリーや護身用として身に付ける若い女性も多い。「野田鶴声社」の名前は、今後あちこちで見られるはずだ。



岡田氏から野田社長に送られたW杯専用ハガキ

世界に鳴り響く、下町 生まれの銅製ホイッスル

岡田正義国際主審も愛用



日本代表の活躍にわいた2002 FIFAワールドカップ(W杯)。それより二十年前も前のスペイン大会で、日本生まれの製品がピッチを縦横無尽に駆け回っていた…。東京の下町、葛飾区亀有の町工場で作られたホイッスルである。

野田鶴声社の社長・野田員弘(みひろ)さんが手探りで作り始めて三十五年、いまや野田鶴声社のホイッスルは欧米を中心に四十か国以上、約千五百万個が海を渡った。九八年の仏大会でそのホイッスルを吹いた岡田正義さんの談話を交えて、野田さんが作り上げた世界一のホイッスルの魅力にせまる。



野田員弘社長

音にこだわり、世界の頂点へ

ホイッスルは亜鉛を加えた銅合金の本体と、その中に組み込まれるコルク球からできており、息を吹き込むとコルク球が振動して音が鳴る。ハーモニカも同じように、内部の薄い金属片を振動させて音を出す。先代が立ち上げたハーモニカ工場を継いだ野田さんは「ハーモニカ作りのノウハウを活かして、世界のホイッスルを作ろう」と決意した。一九六八年のことだった。



銅合金とコルク球からなるホイッスル。構造はシンプルだが、野田鶴声社が長年培ってきた技術とノウハウが凝縮されている。

も高く澄んだ音が出るホイッスル。当時、世界一と評されていた英国のハドソン社を目標に、野田さんは試行錯誤を繰り返して、本体の構造に何度も手を加えた。コルクはポルトガルから取り寄せ、コルクが割れる原因となる唾液の付着を防ぐために、コルク表面をコーティングし、真円に近い形に加工した。メッキ作業など一部の工程を除けば、あとはすべて手作りだ。

欧米人には真似のできない丁寧な作りと音色を追求してきた野田さんの努力は、海外で大きく評価され、七五年には仏の工業技術検査でホイッスル部門の二位に輝いた。その後、欧州のサッカー界を席巻、スペイン、メキシコと二度のW杯に採用された。そして九二年、野田さんのもとに通の手紙が届いた。あのハドソン社が、野田さんのホイッスルを買いたいと言ってきたのだ。音にこだわり続けた下町の職人技が、ついに世界の頂点を制した。

鏡のような美しさも大きな魅力

ほとんどが海外メーカーにOEM(相手先商標生産)で供給していたため、「野田」の名前が表に出ることは少なかった。国際主審の岡田さんも世界一のホイッスルメーカーが日本にあることを知らなかったという。

岡田 それまでホイッスルは輸入品しかないと思っていました。
野田 初めてウチのホイッスルを知ったのは、たしか九十六年、岡田



W杯仏大会のイングランド対チユニシア戦で主審をつとめる岡田氏(中央)
©J.LEAGUEPHOTOS



サッカー国際主審 岡田正義氏

1958年東京生まれ。93年国際主審登録、95年(社)日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)入社。98年世界に約千人いる国際主審から選ばれた34人の一人としてW杯仏大会で主審をつとめる。2002年スペシャルレフリー(プロ審判)契約。冷静かつ機敏な判断力と、毅然とした判定で、1,200以上の国際試合やJリーグの試合をさばっている。



W杯用のホイッスル。左が仏大会、右が日韓大会で使用された。銀メッキは固めの音、金メッキはソフトな音が出るという。

さんが新聞の取材を受けたときでしたね。
岡田 そうです。こんなに質の高いホイッスルが日本製で、しかも過去二度のW杯で使われていたと聞いて、とても驚きました。
野田 仏大会では日本代表の初出場を記念して、銅合金を金色と銀色に表面処理したホイッスルを作り、そのセットを岡田さんに持つて行っていたきました。
岡田 各国の審判に配つたら、見た目が美しいので、みんなとても喜んでいましたよ。
野田 安物はニッケルメッキだけですが、ウチのは銅、ニッケル、クロムの三層メッキ、さらに十三工程もの鏡面仕上げをしていますからね。見た目の美しさは、外国製品と比

べると二目瞭然です。
岡田 合わせ目に隙間があいていたり、はんだ付けの雑なものが多いのですが、野田さんのホイッスルは作りもしっかりしています。
主審の意思を伝えるホイッスル
岡田 先日、テレビでパレーボールの試合を観ていたら、野田さんのホイッスルを使っていましたよ。音は正直ですね、聞けばすぐにわかります。
野田 国際パレーボール連盟の依頼で作ったものです。パレーボールの審判は二試合で何度も力いっぱい吹くので、顎が痛くなるそうです。
岡田 軽く吹いても高い音が出せることは、どんな競技でも審判にとつて非常に重要なんです。
野田 ウチのホイッスルは鼻息でもきちんと鳴りますよ(笑)。
岡田 サッカーの主審が二試合に走る距離は約十二キロ。もつとも

運動量の多い選手でも約十キロですから、主審は選手よりも走っているわけですね。日々トレーニングしているの息が上がることはありませんが、軽く吹いても良い音が出るホイッスルを持つていけば、安心して試合に集中できます。
野田 岡田さんが一番印象に残っている試合はなんですか。
岡田 W杯仏大会のイングランド対チユニシア戦です。
野田 あれはサッカー史に残る名勝負でしたね。岡田さんはつねに冷静で的確にジャッジされています。試合後、敗れたチユニシアの選手が岡田さんに握手を求めてきました。珍しいことだそうですね。
岡田 ホイッスルは主審の意思を選手に伝えるものです。あの歓声でも、私の意思がしっかり伝わったのだと思います。そして、野田さんのホイッスルもあの試合で多くの人が知ったのではないのでしょうか。



各種ホイッスル。(左から)スコットランドヤード用、アイスホッケー用、ラグビー用